

## 入選

### 清水と私たち

黒部市立清明中学校 二年 石坂 清

黒部市の水がおいしい、と評判なのは知っているだろうか。実際本当においしくて、美味しい水の条件である温度、におい、硬度などの条件をすべてクリアしている。夏でも冷たくて、ミネラルが豊富。県外に行ったときの水道水はおいしくない、と一口で分かるほど黒部の水で舌が肥えていた。

小学校のころに、授業で清水(しょうず)巡りというものに行った。私の住んでいる生地(いくじ)には、小学生の足でも行けるくらいの距離に、たくさん清水があった。清水巡りをしたことで、それぞれの清水で少しずつ味や硬さが違うことに気づくことができた。どの清水もすごくおいしかったということを今でも覚えている。中には、メダカが住んでいたり、オタマジャクシ、アメンボが住んでいたりもあつた。

美味しくくてミネラルたっぷりの清水で作った「水団子」というものもある。これも小学校のころに作ったことがある。おいしい清水を使っているの、当然美味しい。生地の道の駅などでよく売られているのを見かける。黒部の水で育てた「名水ポーク」といのも、うま味成分がほかの物より多く、やわらかくジューシーな豚肉だと言われている。

そんな清水は、私の住んでいる生地には二十一か所もある。小さいころから身近にあつて慣れ親しんだものだ。帰り道にも何か所かあるので、夏の暑い学校からの帰り道に飲むと、冷たい清水で生き返るような心地がする。飲むだけの目的だけに使われるものではなく、近くに住んでいる地域の人々には、洗濯や、スイカなどを冷やしたりすることにも重宝されている。それに、清水はとても良い休憩場所になるため、地域の人たちの憩いの場になっている。実際に小学校のころの夏休み、清水の前を通りかかったら、地域の人たちが楽しそうに話し

ているのをよく見かけた。だから、ほかの県には、清水のような場所はありません、ということを知ったときは、驚きのあまり耳を疑ってしまった。生まれたときから、こんなに恵まれた環境にいたこととはとても幸せなことだとこの事実を知ってから、より深く思うようになった。

そもそも清水とは、降った雨が地下にしみこんで再び地上に湧き出てきたもののことを指す。地下水は雨が降ってから、三十年〜四十年かけて湧水として出てくるのだ。つまり、今私が飲んでる清水は、三十年〜四十年も昔に降ったものだということだ。この話を聞いた時、清水の長い歴史を感じて、身近なものの知らないところが知れて、とてもうれしかった。

美味しくくて、大好きな清水をこの先もずっと飲み続けたい。清水を守るために、私にできることはなんだろうか。私の通っていた小学校には、「ビオトープ」というものがあつた。ビオトープとは、本来その地域に住む動植物が安定して生息できる空間のことを指す。私が小学校低学年のころは、ビオトープに沸いていた清水を、みんなが飲むことができた。しかし誰かがビオトープの清水に砂を入れた。それによって、ビオトープの清水を飲むことは禁止されてしまった。そのことが私は本当に悲しくて、砂を入れた誰かを恨んだ。

そんな悲しい出来事が、もう二度と起こらないように、私にできることは清水をなるべくきれいに使うことだ。汚れた手などを洗うときは、すぐに流れる下のほうを使う、などのその清水のルールやマナーをしっかり守って、清水の美しさを守ることだ。そうして私は、できるだけ長く生地の美しい清水を大切にしていきたい。